

五島列島紀行(その1) 長崎から福江へ

2021-4-21 池田良穂

学会の会誌 29 号の新造船の紹介に掲載予定の「オーシャン」の写真をとるためと、編集中の「日本の旅客船Ⅲ—短距離航路客船—」の不足写真を撮影のために、五島列島を 3 泊 4 日で旅しました。

飛行機で長崎入りして、その足で長崎港から 12 時 25 分発の九州商船の「椿」に乗船することができました。途中、上五島諸島の最大の中通島の南端の奈良尾港に寄港して、下五島諸島の最大の福江島までの 4 時間余りの船旅です。九州商船の各船は、昔ながらのカーペット敷の大部屋が多い離島船ですが、ブリッジの下には前方を見渡せるオープンデッキがあり、結構、これが気に入っています。これで喫茶や軽食もあればさらによいのですが、飲み物とカップ麺の自動販売機があるだけでした。ほとんどの乗客は、移動ために船に乗っており、横になって寝ているので、こうしたニーズはないのでしょうか。

さて、この日は僚船の「万葉」がドック入りで欠航だったので、航海中に出会いが期待できるのは、ジェットフォイルと貨物フェリーくらいでしたが、長崎出港時には三菱の立神工場や香焼工場が見ることができて大満足。さらに、今回、五島列島で撮影する新造フェリー「オーシャン」を建造した井筒造船も、港口にかかる橋の手前で見ることができました。ここでは、係船された元福岡市営船と、ドック中の高速旅客船「びっぐあーす 2 号」の姿が確認できました。こうした船上からのシップウォッチングの楽しみがあるので、ジェットフォイルには乗らずに、在来型フェリーを選びました。



長崎港の観光船棧橋には、遊覧船が 3 隻停泊していました。



高速船棧橋には、五島産業汽船の五島航路の高速旅客船「びっぐあーす」が停泊していました。



長崎汽船の双胴型高速船「俊寛」は、長崎港沖合の伊王島・高島を結びます。



ジェットフォイル「ペガサス 2」が羽根を休めていました。長崎と福江を約 1 時間半で結びます。



いよいよ出港です。長崎の旅客船ターミナルをバックで出て、回頭している時の写真です。



三菱の有名なクレーンです。まだ現役とか。



三菱造船の技術部隊の本拠ビルです。かつて、この下の桟橋で「ダイヤモンドプリンセス」が艀装工事をされていました。



立神工場の岸壁にはイージス艦が繋がっていました。



艀装中の自衛艦です。多機能護衛艦と呼ばれる、新しいタイプの護衛艦です。



ドックの中では、東京九州フェリー用の新造船の2番船「それいゆ」の艀装工事がドック内で進んでいました。7月から横須賀～新門司航路に就航します。



有名な小菅修船場後のそろばんドックです。明治元年に建設された日本初の西洋式船舶修理施設で世界遺産にも登録されています。



海岸線に並んでいた造船所もすっかり整理されてしまっていました。



港口近くの井筒造船所で修理中の「びっぐあーす 2号」です。



船名が消された白い客船は元福岡市営船のようです。これから第2の人生が始まるのでしょうか。



女神大橋を通過します。



三菱の香焼工場の艀装岸壁には、船の姿はなく、ひっそりしていました。ドックは大島造船への売却が予定されています。



香焼工場のドック内に建造中の船が見えました。



右舷には、長崎港の出口の神ノ島に立つマリア像と教会が見えました。



左舷には、伊王島の温泉リゾート施設が見えました。いつもは、この施設からシップウォッチングを楽しんでいますが、今回は海上から眺めました。



「椿」の客室は、大部屋が中心です。



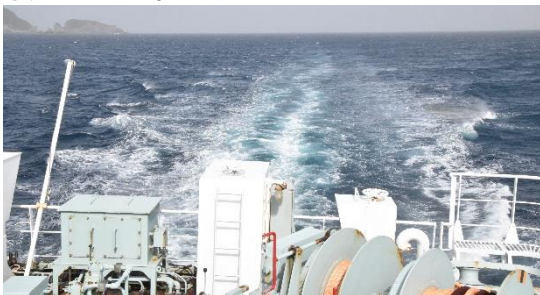
自動販売機コーナーに小さなテーブル席があります。



右舷側にソファー型の椅子席がありました。車椅子も利用可能なバリアフリールームとなっています。



奈良尾港の全景です。



奈良尾港を出港して、福江港に向かいました。風が強くなり、次第に波が立ってきました。



福江港に到着する直前にジェットフォイル「ペがさず 2」が追い抜いていきました。「椿」より 5 分早く福江に到着します。



いよいよ福江港への入港です。この日は黄砂がひどくなり、次第に視界が悪くなりました。



出港するジェットフォイルと、入港する「オーシャン」の姿です。



入港する「オーシャン」です。下五島の福江島～奈留島～若松島を結ぶ新造フェリーで、3 月に「フェリーオーシャン」の代替船として就航しました。



福江港で荷役中の「オーシャン」です。



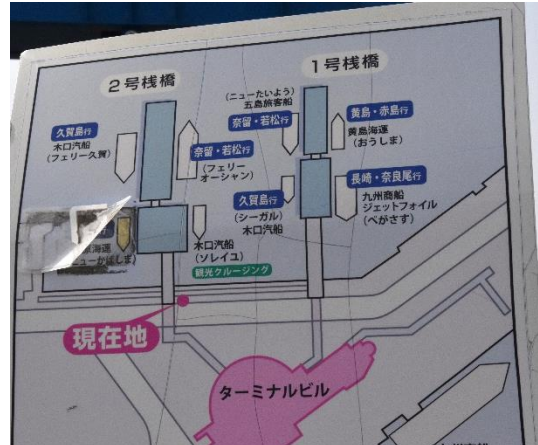
福江港のフェリーターミナルです。1 回はチケット売り場とお土産屋、2 階にレストランがありました。



福江港の客船岸壁には、岸壁の先にトイレ(写真右側の茶色の建物)があり、その屋上が展望台になっており、出入港する船のシップウォッチングには最適なポイントです。



福江港のフェリー岸壁の全景です。手前の 2 本が小型客船用の浮桟橋で、九州商船と野母商船の大型客船は、ターミナルの裏側の岸壁に着きます。



小型客船の桟橋の前には、航路別の案内板がありました。